

|                   |  |            |     |            |           |
|-------------------|--|------------|-----|------------|-----------|
| 都道府県・指定都市番号       | 1  | 都道府県・指定都市名 | 北海道 | 研究課題番号・校種名 | 1 高等学校    |
|                   |  |            |     | 教科名        | 総合的な探究の時間 |
| 研究課題              | <b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b><br>○総合的な学習の時間の取組を基盤とし、質の高い探究を通して資質・能力を育成する「総合的な探究の時間」の実現に向けた指導計画や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習評価の在り方に関する研究   |            |     |            |           |
| ふりがな<br>学校名 (生徒数) | ほっかいどうさっぽろきたこうとうがっこう<br>北海道札幌北高等学校 (954人)  |            |     |            |           |
| 所在地 (電話番号)        | 〒001-0025 北海道札幌市北区北25条西11丁目<br>電話 011-736-3191 FAX 011-736-3193<br>e-mail sapporokita-z0@hokkaido-c.ed.jp  |            |     |            |           |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | <a href="http://www.sapporokita.hokkaido-c.ed.jp/">http://www.sapporokita.hokkaido-c.ed.jp/</a>  |            |     |            |           |
| 研究のキーワード          | 資質・能力 思考ツール 持続可能な取組 次の学びに繋げる 自己評価  |            |     |            |           |
| 研究結果のポイント         | ○ 生徒の学習状況<br>平日の学習時間が1時間未満である生徒の割合が減少傾向にあり、3時間以上学習する生徒の割合が増加した。主体的・対話的で深い学びが生徒に浸透している結果であると考え。<br>○ 成果の普及<br>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から研究成果を広く普及することは難しい状況であるが、本校の取組を幅広い場面で伝えることができた。<br>○ 持続可能な校内の組織づくり<br>校内研修会の実施や委員会の取組を公開することにより、本校で育成する資質・能力について教員間で認識を共有することができた。 |            |     |            |           |

1 研究主題等

(1) 研究主題

|   |
|---|
| 総合的な探究の時間の取組を基盤とし、教科等の学びとの関連を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習評価の在り方に関する研究 |
|---|

(2) 研究主題設定の理由

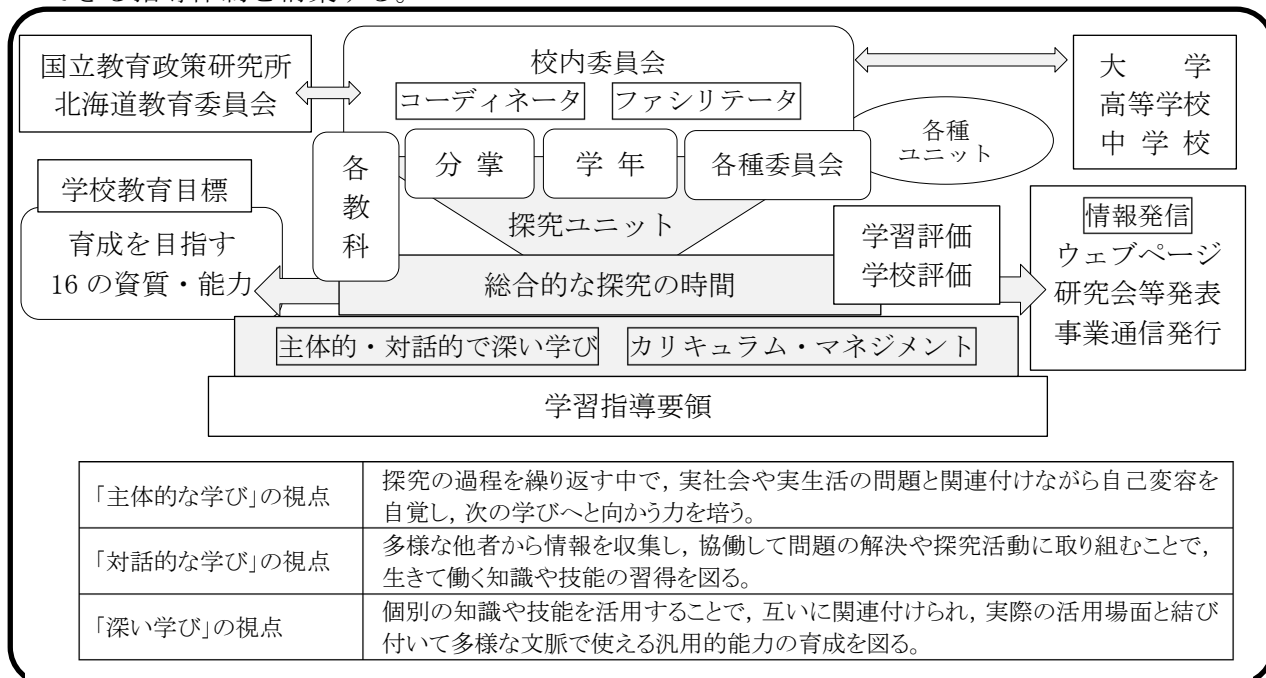
- 学校の現状と課題  
 平成28年度に、文部科学省から「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究」の指定を受けて以来、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」に係る実践研究に取り組んできた。その一つとして総合的な探究の時間における探究活動の視点を重視した取組を行っている。
- 研究の目的  
 これまでの「主体的・対話的で深い学び」に関する実践研究を基盤として、「探究」を共通の軸とし、総合的な探究の時間と他教科・科目等における学びとを相互に関連付けることで、本校生徒の資質・能力の向上を図ることを本実践研究の目的とする。
- 研究期間中に達成したい目標等
  - ・総合的な探究の時間と他教科・科目等における「探究」を相互に関連付けることにより、本校生徒に育成する16の資質・能力の確実な定着を図る。
  - ・総合的な探究の時間で育成した資質・能力を他教科等にフィードバックさせることにより、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた学習・指導方法の工夫・改善を一層推進する。

(3) 研究体制

- 平成28年度以降、全校体制で取り組んできた主体的・対話的で深い学びに関する実践研究で培った知見を基盤として、本実践研究に効果的に取り組むため、取組全体のマネジメントを担う校内委員会を継続して設置する。
- 本実践研究の企画・運営は委員会内のコーディネータ及びファシリテータが行い、学校課

題については、少人数のユニットが分掌や学年と連携してその解決に当たる。総合的な探究の時間については、教務部と学年が連携した探究ユニットがそのコーディネートを担う。

- 探究の過程を総合的な探究の時間の本質と捉え、学びが総合的な探究の時間に留まらず、教科等の学びとの関連性を意識したものになるように、教材や指導方法等を常に分析・評価できる指導体制を構築する。



#### (4) 2年間の主な取組

|       | 実施時期 | 研究内容, 研究方法, 成果の公開等  |
|-------|------|---|
| 令和2年度 | 前期   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間及び他教科・科目等での生徒の活動の全体を俯瞰できる資料(進路マップ)の作成</li> <li>・思考力, 判断力, 表現力等を問う問題や探究の過程を意識した問題を作成し, 考査等において活用</li> <li>・前期学習評価の実施</li> <li>&lt;生徒の活動&gt;</li> <li>・学問探究(7月~9月)~個人レポートの作成, プレゼンテーションの実施</li> <li>・思考力アセスメント(7月)</li> </ul>  |
|       | 後期   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会の実施(本実践研究の取組の柱の確認・ICTの活用)</li> <li>・後期学習評価の実施, 思考力アセスメントの結果分析</li> <li>・研究の振り返り(成果と課題の分析)</li> <li>・実践研究の中間報告書の作成</li> <li>・情報の発信, 成果の普及</li> <li>&lt;総合的な探究の時間の活動&gt;</li> <li>・ワールドカフェ(道徳11月)</li> <li>・課題研究(10月~12月)~グループワークポスターの発表</li> <li>・1年間の振り返り, ポートフォリオの整理</li> </ul> |

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- 「探究」における教科等横断的な取組

各教科で実践している探究的な取組と総合的な探究の時間の取組について、時期が重ならないように調整した。また、指導内容の配列を工夫することで生徒の力を効果的に育成できるような年間計画を作成した(新型コロナウイルス感染症の感染予防のための臨時休業や学校行事の変更のため、実際の取組は作成した年間計画から更に変更した)。

年間の活動を進路学習と関連付けて示すために「進路マップ」を作成し、1年間の学校生活及び3年間の活動を視覚化できるようにした。

- 思考ツールの活用  
思考力を客観的に見るため、「GPS-Academic テスト」を活用し、様々な思考力の種類を踏まえて生徒が思考する機会を設定した。
  - 持続可能な教材の開発と実践  
従前より実施している総合的な学習の時間における取組の資料を、学校全体で共有できるようにするため、教務部内に「探究」ユニットを立ち上げ、学年内で共有していた教材を収集・整理した。教材は生徒の実態に応じたものとするため、前年度の取組をそのまま流用するのではなく、学年の探究担当を中心にアレンジして作成できるようにした。
  - 学習評価  
今年度、1学年の進路学習において、個人で作成したレポートについて、生徒間でルーブリックを活用した相互評価を行った。その他にも、適切な場面でその場にあった思考ツールを用いて生徒自身が自己分析できるように Portfolio として記録を残し、客観性のある自己評価ができるようにした。
  - 学習環境の整備  
コロナ禍における臨時休業期間中、「Google Classroom」や「Google Meet」を活用し、ホームルームにおいて「Google Form」を用いたチェックテストの実施、自己採点及び分析等を行った。また、学校再開後の授業においても「Chromebook」を活用して授業を行う教員が増えるなど、授業改善につながるオンラインの活用がなされている。
- (2) 具体的な研究活動
- 平成30年度入学生：現3学年(総合的な学習の時間)  
3年間の総合的な学習の時間において探究の過程を繰り返す中で、1学年では探究の基礎を学び、2学年では実践を行い、3学年では探究の深化を図った。総合的な学習の時間だけではなく、多くの教科・科目において探究的な実践を行う際には、実施する時期の重複などにより、生徒の活動が過多になってしまわないよう、年間計画を作成する段階で調整し、生徒・教員ともに負担感が出ないよう配慮した上で実践を行った。
  - 平成31年度入学生：現2学年(総合的な探究の時間)  
「GPS-Academic テスト」など、民間業者の思考力ツールで掲げられている様々な思考力と探究活動で身に付ける資質・能力を関連付けて示し、7月に実施した「単発課題探究」の後などに、育成を目指す資質・能力の自己評価を行うことができた。  
今年度の新たな取組として、探究の成果を1学年に見せる機会を設定した。コロナ禍での開催であったため、Onlineでの実施し、「Google Meet」により教室へ配信した。
  - 令和2年度入学生：現1学年(総合的な探究の時間)  
進路学習とあわせてレポートを作成し、相互評価を行った。その後、優秀者による発表会を実施し、探究活動の基礎を学ぶことができた。  
12月には初の試みとして、先輩の探究発表を見る機会を設定した。その後、グループによる課題解決学習を行うことで、生徒は探究の手法をより一層学ぶことができた。
  - カリキュラム・マネジメントの視点  
本校として、「総合的な探究の時間」に取り組むうえで、「カリキュラム・マネジメント」の定義を明確にする必要があると考え、校内研修会を通して本校におけるカリキュラム・マネジメントの定義付けを行った。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

#### (1) 生徒の学習状況

- 育成を目指す資質・能力の確実な定着  
総合的な探究の時間の学びの中で、育成を目指す16の資質・能力を意識しながら生徒に指導することでより確実な定着を果たした。探究における課題研究発表会やワールド・カフェによるワークショップを実施することで、特に「多様性の理解」、「コミュニケーションの技能」「他者と協働する力」「情報を扱う技能」が育まれた。今後は教科間で連携し、より発展的なワークショップを実施することで、思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図る。
- 2学年生徒の学習時間(11月)  
本校が独自に実施している「学習状況調査」によると、平日の学習時間が1時間未満である生徒の割合が減少傾向にあり、3時間以上学習している生徒の割合が増加した。  
今年度は感染症予防の観点から多くの学校行事が縮小、廃止となり、部活動や特別活動

にかける時間が減少していることから、大幅に学習時間が増加したが、主体的・対話的で深い学びが生徒に浸透している結果であろうと考える。

| 平日の家庭学習時間   | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R元年度  | R2年度  |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1時間未満       | 12.7% | 11.3% | 12.1% | 16.0% | 11.6% | 9.1%  |
| 1時間以上～3時間未満 | 69.5% | 70.8% | 64.6% | 71.7% | 71.4% | 56.0% |
| 3時間以上～4時間未満 | 14.3% | 16.0% | 19.3% | 10.7% | 14.2% | 27.4% |
| 4時間以上       | 3.5%  | 1.9%  | 4.1%  | 1.6%  | 2.8%  | 7.5%  |

○ 学習習慣

第1学年から第2学年になり、学習習慣の定着度合いを見てみると「学習をしない」生徒はほぼ見られなくなっている。毎日ほぼ決まった時間に学習する生徒の割合が増加傾向にあり、生活習慣も含めて本校の学校生活の中で確立されている生徒が多いことがわかる。

| 令和2年度 第2学年                        | 1年6月  | 1年11月 | 2年6月  | 2年11月 |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 毎日ほぼ決まった時間に学習する                   | 50.8% | 48.1% | 54.7% | 57.7% |
| 宿題の有無やその内容・量により、<br>やったりやらなかったりする | 46.7% | 47.8% | 43.7% | 40.7% |
| 自宅での学習はしない                        | 2.5%  | 4.1%  | 1.6%  | 1.6%  |

(2) 成果の普及

- 次の取組により、本校における実践を積極的に発信した。今後、他校の教員が参加する研究協議会などを通して、成果をより一層普及する必要がある。

|               |   |
|---------------|---|
| 他校からの視察       | 苫小牧南高校(10月22日)                            |
|               | 北星女子高校(12月11日)2年課題研究発表                    |
| 道教委関係者への説明・協議 | ICT教育推進課との意見交換会(9月2日)                     |
|               | 教育委員視察訪問(9月30日)                           |
| 報道            | 北海道学び推進月間の取組に道德教育のWorld Cafeが紹介される(12月4日) |
|               | 大学入学共通テストに向けた学びについての新聞記事が紹介される(12月8日)     |

(3) 実践研究への総括的評価

○ 校内委員会の役割

平成28年度から本校に設置した、分掌、学年、教科という組織を横断したメンバーで構成される委員会、本実践研究全体のコーディネートをを行った。

本校の抱える課題及び今後の教育について情報を共有するとともに、必要に応じたユニットの設置を教員に依頼し、有志によりユニットを形成し、研究を推進している。

● 持続可能な校内の組織づくり

一部の実践だけで生徒の資質・能力を向上させることは難しいため、学校教育全体で教育効果を上げる必要がある。

また、教員の異動により、取組の本質が失われてしまうことを避けるため、校内研修会や委員会の取組の公開を通して教員間で認識を共有するとともに、本校で目指す資質・能力の育成に向け、生徒の実態に合わせ、取組内容を改善する必要がある。

4 今後の取組

(1) 「探究」を軸とした学びの関連付け

本校で育成を目指す16の資質・能力を、学校の教育活動において、「いつ」「どこで」「どのように」育成するのかについて、育成を目指す資質・能力と育成する時期や取組内容の全体像を生徒と教員が共有するとともに、育成した資質・能力をどのように評価するのかについて、具体的な方策を考える必要がある。また、教員の異動があったとしても、取組の本質などを引き継げるよう、工夫する必要がある。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた学習・指導方法の工夫・改善

探究活動をより効果的に実施するためには、ICTの活用は不可欠であることから、ICT環境の充実を目指すとともに、「Chromebook」の活用や「G-Suite」を用いた授業を実践し、主体的・対話的で深い学びをより一層の充実させる必要がある。

(3) 学習評価の検討

指導要録に観点別学習状況の評価を記載することを踏まえ、「総合的な探究の時間」の評価だけではなく、教科・科目の客観的な評価方法について研修を積むとともに、道外視察及び学習評価に係るユニットの形成などを検討し、学習評価の在り方について検討し、実践する必要がある。